

## 総合的な豪雨対策の推進について H16.12

### 【近年の災害の特徴と新たな課題】

- 1 自然的状況
  - ・局所的な集中豪雨が頻発し、その影響を受ける中小河川を中心に洪水や、土砂災害が頻発
  - ・自然の外力は施設能力を超える可能性が常にあることを踏まえた備え
  - ・破堤のように急激に災害現象が拡大することに対する対策
- 2 社会的状況
  - ・少子高齢化の進展、生活・就業形態の変化等を踏まえた警戒避難体制の確立
  - ・近年の社会的状況の変化を踏まえた共助体制の再構
  - ・危機意識の低下している現代社会においても、災害時に的確な認識や行動がなされるような仕組み

### 【今後の対策の基本的方向】

- 災害が発生した場合でも被害を最小化する「減災」を図る
- ・ソフト対策とハード整備が一体となった減災体制の確立
  - ・災害安全度の早期向上のための多様な整備手法の導入、既存施設の有効活用、管理の高度化・効率化
  - ・地域防災力の再構築への本格的支援

### 【具体的施策】

- 1 早急に災害安全度を高めるための防止施設等の整備の質的転換
- 2 防災施設等の機能の維持管理の充実と危機管理体制の強化
- 3 的確な判断・行動を実現するための防災情報の提供の充実
- 4 地域防災力の再構築

## 洪水氾濫時・土砂災害発生時における被害最小化策のあり方について H17.12

### 【基本的認識】

- 1 治水施設の整備により、さまざまな土地利用を可能にする一方、水害・土砂災害対策とまちづくり等の連動は薄らいできた
- 2 限られた投資余力の中で、施設整備には時間がかかり、施設の整備途上で被災するといった状況が常に存在  
また地域防災力が低下し、氾濫した場合の備えが、ますます重要
- 3 河川行政による対策だけでなく、まちづくりや住まい方、個々人の対応を含め、関係する様々な主体が相互に連携して総合的に取り組む必要

### 【対策の基本的方向】

- 1 洪水氾濫時・土砂災害発生における被害最小化策として、できるかぎり人命をまもること、社会機能の継続・早期回復を図ることを主眼におき、地域形成を目指す。
- 2 氾濫時等被害最小化策と治水施設等の整備は、被害軽減効果に加えて、時間軸を入れた効果を評価し、最適バランスで整備していくべき。
- 3 氾濫時等被害最小化策の進め方は関係機関が共同して、効果的な連携を図りながら総合的に進めていくべき。

### 【具体的施策】

- 1 被害にあいにくい住まい方等の転換
- 2 被害エリアの拡大を防止するための氾濫流防御
- 3 迅速かつ確実な避難・援助の実現
- 4 復旧復興も考慮した施設機能の維持
- 5 氾濫時等を想定した治水・砂防関係施設の整備等

## ゼロメートル地帯の今後の高潮対策のあり方について H18.1

### 【背景】

- ・H17.8  
ハリケーン・カトリーナ
- ・S34の伊勢湾台風を契機に高潮対策を実施
- ・三大都市圏のゼロメートル地帯に約400万人が居住
- ・今日的な社会状況に照らした検証の必要性

### 【ゼロメートル地帯の今後の高潮対策の基本的方向】

- 1 大規模浸水を想定した被害最小化対策の必要性  
投資余力が限られている中であって、防護施設の着実な整備及び信頼性の確保に最も重点を置く  
リスクマネジメント対応のセーフティネットとして、大規模浸水を想定した被害最小化対策を講ずるべき  
・被害の最小化を図るためには、地域が自ら守ることが重要であり、まちづくりや住まい方、個々人での対応を含め、関係する様々な主体により総合的に取り組む
  - 2 ゼロメートル地帯の今後の高潮対策の進め方  
・これまでの高潮計画に沿って、浸水防止に万全の対策を講じ、海岸及び河川行政を担当する機関がイニシアチブをとる  
・被害最小化対策は、人命を守ること及び社会機能の継続・早期回復が主眼
- ・被害最小化対策は、関係機関が共同して、密接に連携を図り、総合的に推進  
・被害最小化策の実施にあたっては被害形態を推定し、時間軸に照らして検証しながら推進

### 【推進すべき具体的施策】

- 1 これまでの高潮計画に沿って浸水を防止するための万全の対策
- 2 大規模浸水を想定した被害最小化対策
- 3 高潮防災知識の蓄積・普及
- 4 高潮防災に関するさらなる安全に向けての検討課題